

平成27年度 町政・町教育行政執行方針

平成27年第1回町議会定例会が3月5日から16日まで開催されました。

この定例会で関町長が、平成27年度町政執行の基本方針を述べ、佐々木町教育委員長が平成27年度の教育に関する主要な方針を述べました。

また、町政執行方針に基づいた予算案を提出し、慎重審議の結果原案どおり可決されました。新年度のスタートにあたり、その概要をお知らせします。



はじめに

国 は強い経済の実現により「経済の好循環」の拡大を図りつつ、地方の創生、安全・安心と持続可能な基盤確保など中・長期の発展につながる取り組みを強力に推進するとしています。

こうした中、平成27年度予算の編成にあたっては、中・長期的な視点で新たな財政規律の構築と行政の簡素・効率化を推進するとともに、国の平成26年度補正予算との連動を図りつつ、地域の創生と活性化、安全・安心で住み良い町の構築につながる予算編成に努めました。

これにより、平成27年度の一般会計予算は、前年度比9.3%増の41億300万円、また、5つの特別会計の予算額は、前年比9.9%増の15億2千494万円、水道事業会計は、前年比53.1%増の2億5千679万3千円で、各会計を合わせた予算総額は、58億8千473万3千円となり、前年当初と比べ9.2%増の積極型予算となっています。



産業振興施策

平成27年度主要施策

◆昨年来、国においては、米政策の見

直しによる農業政策、農業改革ののちもとの大転換、TPP交渉についても交渉経過は依然として不透明な部分があり、農業を取り巻く環境は引き続き予断を許さない状況にあると言えます。

こうした状況の中、「地方創生」への国の動向も注視し、関係機関・団体等と情報共有を図るなど連携を強化し、農業者が意欲と将来展望を持つて経営展開できるように地域の特色を生かした取り組み支援を継続するとともに、地域農業の持続的発展に向けて「JANA南もい」が策定する農業振興計画策定に向け協力します。

◆牛肉の市場価格は高値で推移しており、好感感はあるものの、飼料価格の高騰など経営環境は厳しいものがあります。小平産牛肉は「産業まつり」においても大きな目玉であり、町の畜産振興の観点からも肥育事業は重要と考えています。

また、鬼鹿牧場の管理運営については、引き続き「JANA南もい」が指定管理委託により運営することとなりますが、畜産農家のニーズを踏まえ施設のさらなる有効な利活用が図られることを期待します。

◆漁業経営を取り巻く環境は、燃油・資材等の価格高騰や魚価安傾向に加え、海獣による漁業被害が厳しい状況にあります。小平地区水産再生委員会が昨年度作成しました「浜の活力再生プラン」に基づき、漁業者の所得の向

上を目指し、もって水産業の振興や将来へ向けた漁村存続の有益な活動を進めるため、漁業者や漁業、地域住民と一体となって進めます。

また、漁業生産活動の拠点であり、臼谷・鬼鹿漁港の整備については、事業計画により、一部着手されていますが、今後も事業の推進その他漁業環境の整備について関係機関への要望等を継続します。

◆特産品のブランド化を図り、雇用機会拡充と共に地域経済の振興に寄与することを目的とした、「町特産品振興支援事業補助金制度」の補助総額を増額し、積極的な制度の活用により6次産業化の推進等、地域住民の意欲的な活動を一層支援します。

◆商工業の振興では、中小企業特別融資制度の貸付金額等貸付条件を見直すとともに、新たに中小企業振興資金利子補給制度を設け、中小企業の育成振興及び経営の合理化を促進します。

◆観光振興策では、「にぎわいと心安らぎ」を町民や来訪者に提供するため「小平町観光交流センター」と、リニューアルした「食材供給施設」を含む「道の駅・鯉番屋」エリアを地域振興、観光推進、及び歴史文化の保存伝承の核とし、さらに今年度計画している「番屋周辺環境整備事業」と併せ、「道の駅・憩いの場」としての機能を充実し、施設の有効な利活用を進めます。また、ゆつたりかん周辺整備につい